

豊橋総合スポーツ公園 B地区野球場の 基本設計について

令和7年8月19日

都市計画部 公園緑地課

文化・スポーツ部 スポーツ課・スポーツ施設再編室

目次

1. 計画場所の概要
2. 計画の方針
3. 計画の概要
4. 完成予想図
5. 概算事業費

1. 計画場所の概要

○計画場所：豊橋総合スポーツ公園B地区（約34ha）内

（位置は左図  ）



図1 位置図

出典：国土地理院

1. 計画場所の概要

- **運動公園として都市計画決定**（平成6年9月）
- B地区は屋外で高い市民ニーズに対応した**スポーツゾーン**
- 災害時の避難や応急活動のための**緊急輸送道路に接する**
- 災害発生時に県南東部地域の受援及び応援のための集結・集積活動拠点である**広域防災活動拠点**
- 愛知県により指定された**津波災害警戒区域内**
- 本市が設定した**特定避難困難地域内**
- レベル2地震動において**液状化危険度が極めて高い地域**
(地質調査結果に基づく液状化判定の結果)

2. 計画の方針

- 硬式・軟式野球・ソフトボールに利用でき、**メイン球場とサブグラウンド2面の計3面が隣接**し、大会や日常の練習など使いやすい野球場とする。
- 野球場は、津波が発生した際にサッカー場など**周辺施設の利用者や周辺地域の住民が一時的な避難に利用できる施設**とする。
(メイン球場とサブグラウンド全てを津波の水位以上の高さとし、更にメイン球場は**災害対策基本法による津波の指定緊急避難場所**として指定できる計画とする)

3. 計画の概要

(1) 平面計画

- メイン球場を周辺施設や地域からの避難場所としてわかりやすい**海から離れた道路側**に配置
- メイン球場西側にサブグラウンドを2面並べて配置
- メイン球場とサブグラウンド周辺に**ウォーミングアップエリア**を配置
- 駐車場はメイン球場とサブグラウンドへのアクセス性を考慮し配置
- メイン球場とサブグラウンド外周に**車両が通行可能な園路**を計画
- 風対策として防風林**を計画

3. 計画の概要

(2) 施設計画

表1 野球場の規模及び施設

整備場所	項目	施設
メイン球場・サブグラウンド共通	規模	両翼 100m×中堅 122m (公認野球規則：97.534m 以上×121.918m 以上)
	球場施設	バックネット・ベンチ(ダッグアウト)・ファウルポール・器具庫(ベース等備品類を含む)
メイン球場	メインスタンド	本部・役員室・審判員室・記者室・放送室・救護室・トイレ(浄化槽)・更衣室・倉庫・内野スタンド約 1,300 席(車いす席を含む)
	球場施設	防球ネット H=約 <u>15m~30m</u> ・ナイター照明(LED)・バックスクリーン・スコアボード(本体、架台込み)・旗掲揚塔・ブルペン(投球練習場)
サブグラウンド(1面当たり)	球場施設	本部席・防球ネット H=約 15m・ブルペン(投球練習場)
その他	球場外施設	管理棟(トイレ(浄化槽)・男女更衣室・ <u>事務室・倉庫</u>)
	駐車場	自家用車駐車場約 300 台、大型バス駐車場約 10 台

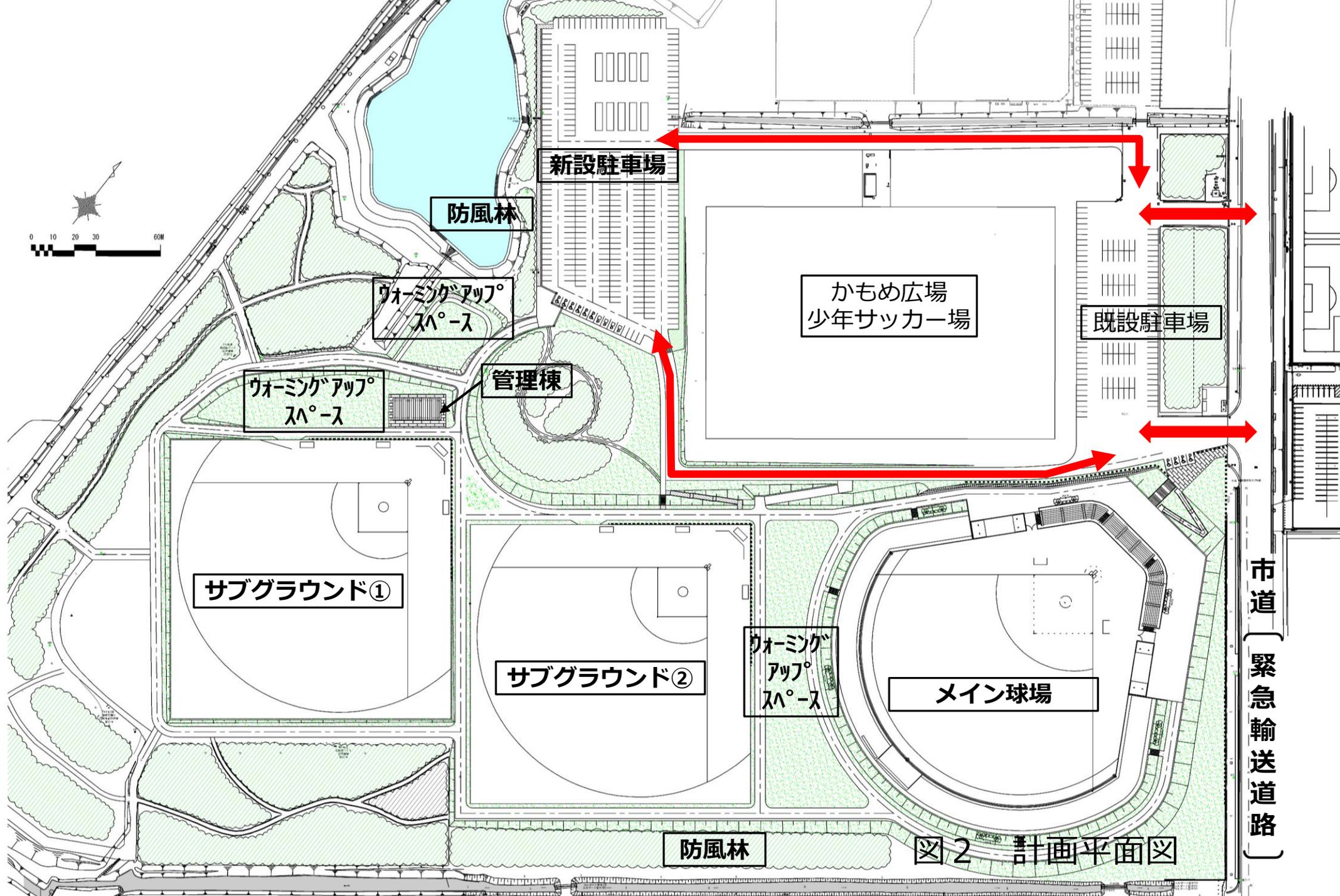


図2 計画平面図

3. 計画の概要

(3) 横断計画 (1 / 2)

○計画高（盛土高）は、①～③の3点により設定

① **南海トラフ地震（理論上最大）の津波高（T.P.2.9m）**

② **気候変動に伴う海面上昇量（推計値）（0.39m）**

③ **液状化による沈下量（0.19m）**

○盛土構造は原則法面（勾配1:2）

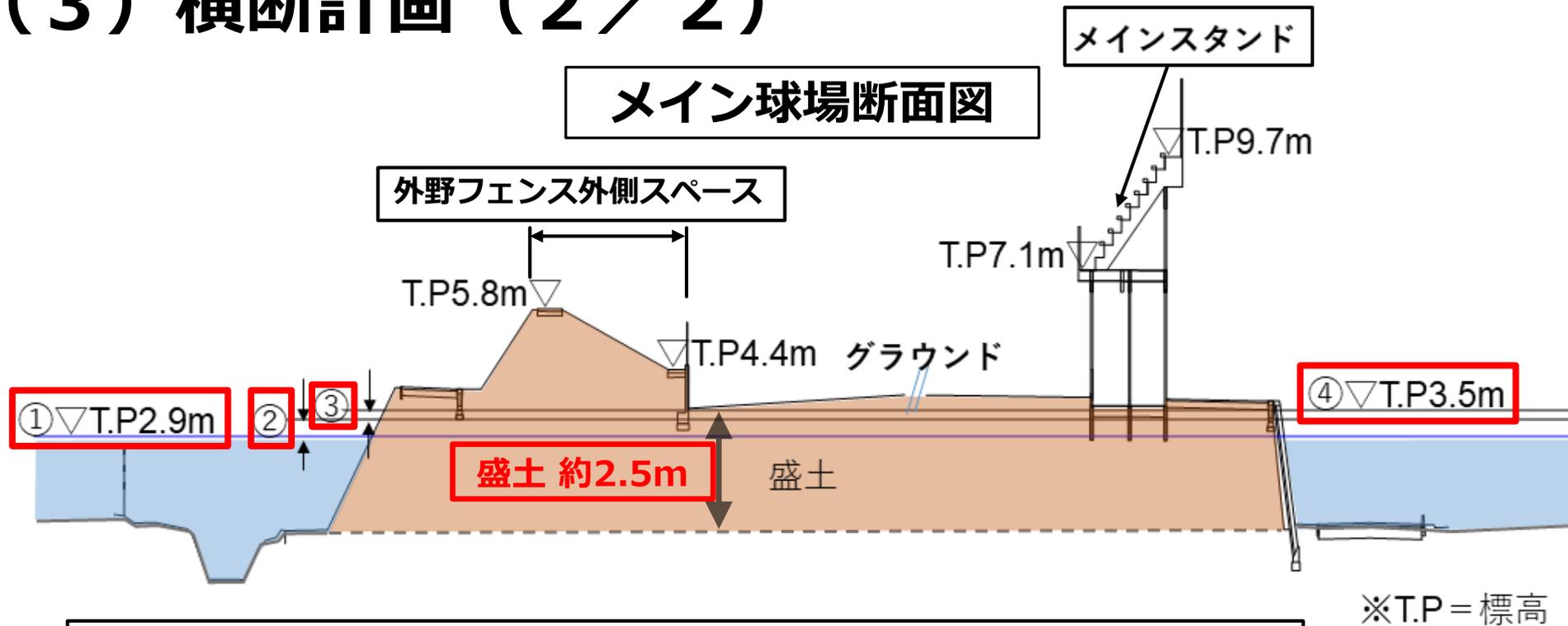
○法面は種子散布により緑化し法面を保護

○外野フェンス外側スペースは観覧等に適した法面勾配(1:7)程度

○メイン球場・サブグラウンド・駐車場は水平でなく排水勾配を確保

3. 計画の概要

(3) 横断計画 (2 / 2)



- ① : 南海トラフ地震 (理論上最大) の津波高 2.9m (T.P)
- ② : 気候変動に伴う海面上昇量 (推計値) 0.39m (愛知県)
- ③ : 液状化による地盤沈下量 0.19m (地質調査結果)
- ④ : **計画高 (盛土高)** ① + ② + ③ = 3.48m ≒ **3.5m**

図3 計画横断図

3. 計画の概要

(4) 地震対策 (1 / 3)

- 野球場3面は**気候変動による海面上昇の高さを考慮した津波基準水位以上の高さ**とし**液状化における沈下も考慮**
- 盛土構造物は圧縮力に強い**ため、水圧、波力、漂流物の衝突等による振動や衝撃は考慮不要** (国土交通省報告書より)
- 法面は地震時の揺れや、津波の流れにより**侵食され洗堀の可能性**があるため、実施設計にて**安定解析**を行い**必要な対策を設計**

3. 計画の概要

(4) 地震対策 (2 / 3)

○メイン球場の構造物周辺(右下図 ■)は、液状化の発生を防止する対策のサンドコンパクションパイル工法など静的締固め工法を採用し詳細は実施設計にて設計

- ①液状化の発生を防止する対策
(サンドコンパクションパイル工法等)

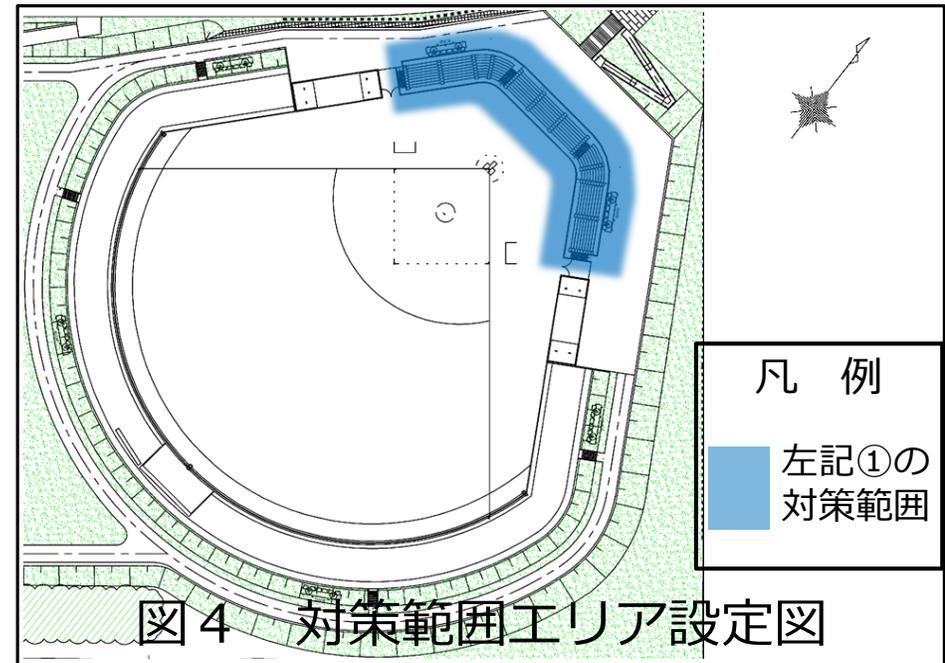


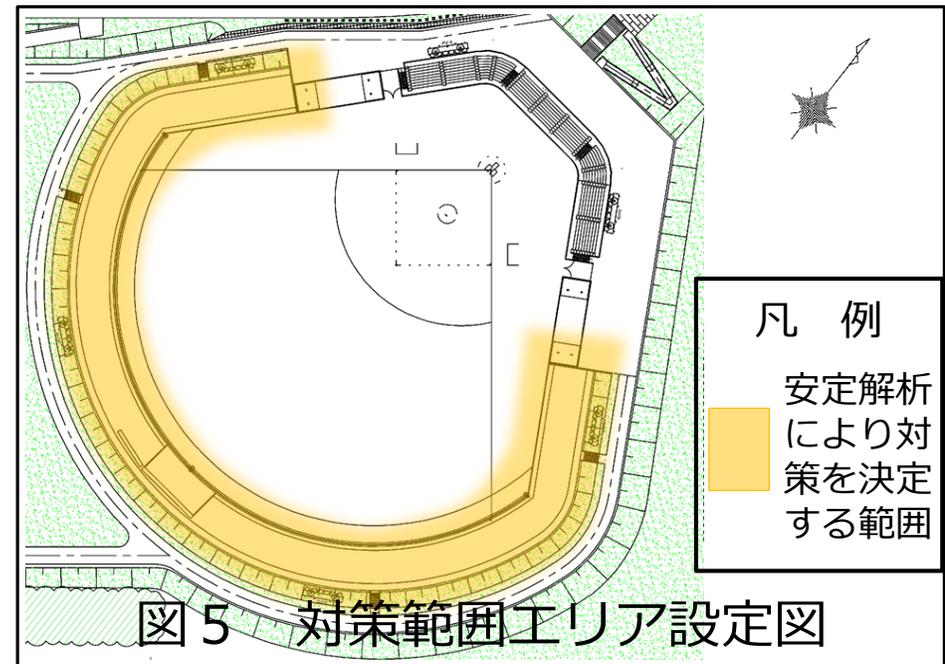
図4 対策範囲エリア設定図

3. 計画の概要

(4) 地震対策 (3 / 3)

○メイン球場の外野フェンス外側スペース(右下図 ■) は土構造であるため、実施設計にて盛土の安定解析を行い最適な対策を選定し設計

- ①液状化の発生を防止する対策
(サンドコンパクション工法等)
- ②液状化の発生は許すが施設の被害を軽減する対策
(補強材の敷設工法等)



3. 計画の概要

(5) 津波の指定緊急避難場所

【周辺部における最近の指定状況】

○豊橋市総合体育館とアクアリーナ豊橋の2階デッキを、
津波の指定緊急避難場所に指定（令和6年10月）

- ⇒
- ①津波の特定避難困難地域の縮小（公園の一部区域が解消）
 - ②公園利用者や周辺地域の避難場所の選択肢が増える

3. 計画の概要

【メイン球場の避難者受入れ想定】

○メインスタンドと外野フェンス外側スペースを
新たな津波の指定緊急避難場所に指定

- ⇒
- ① **津波の特定避難困難地域の縮小（公園全体が解消）**
 - ② **公園利用者や周辺地域の避難場所の選択肢が増える**
 - ③ **受入れ可能人数（想定）：約5,500人 > 約4,080人**

【③各人数の根拠一覧】

受入れ可能人数	○メインスタンド：約1,560人（約1,300席+前後通路：約260人）	約5,500人
	○外野フェンス外側スペース：約3,940人（約3,940㎡（1人当たり1㎡））	
利用者数 居住人口	○野球場整備後のB・C地区の利用者数：約3,750人	約4,080人
	○半径2km圏内の居住人口：約330人	

3. 計画の概要

【特定避難困難地域の解消】

※下図は豊橋市津波避難行動指針に基づき公園緑地課が作成

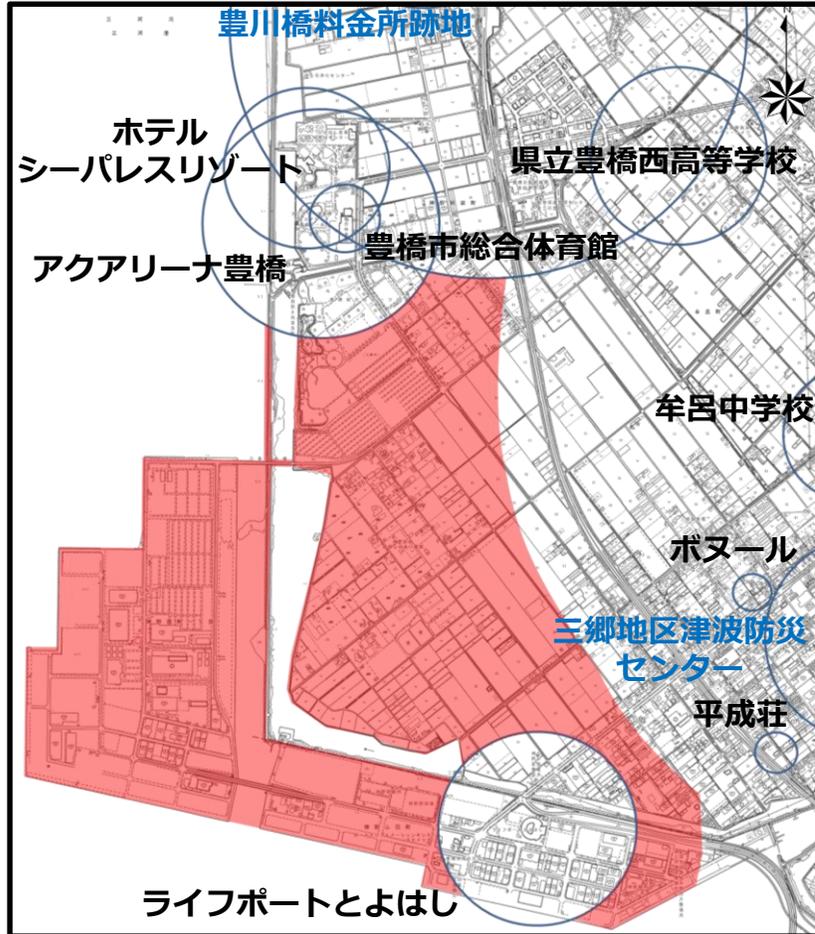


図6 特定避難困難地域（現在）

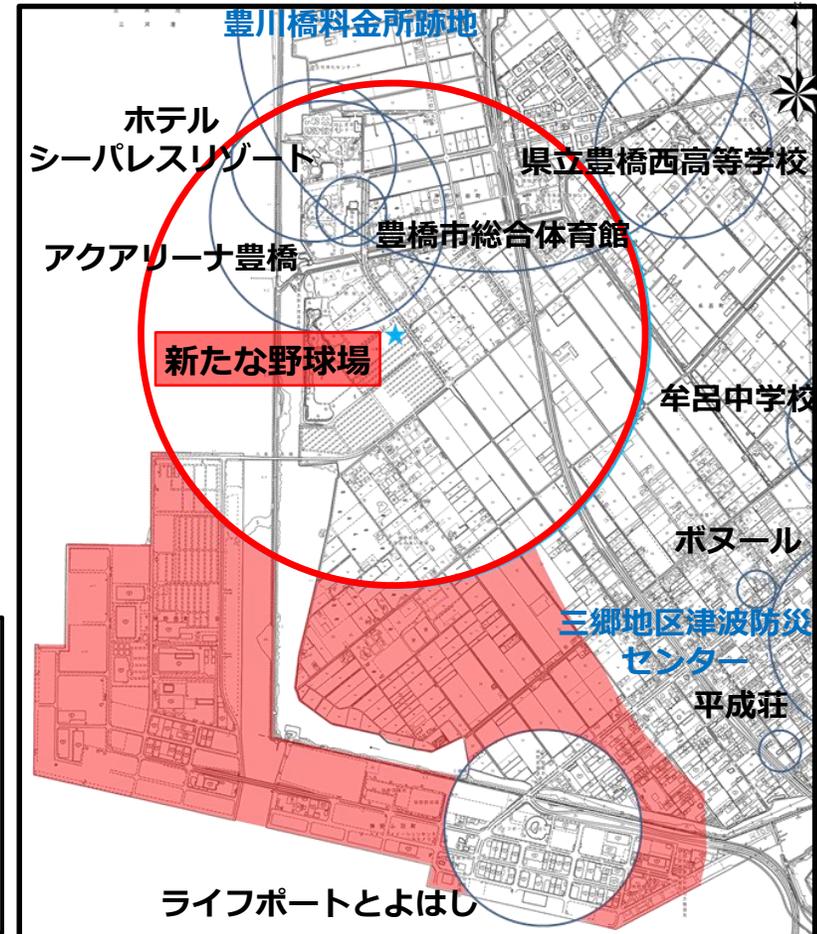
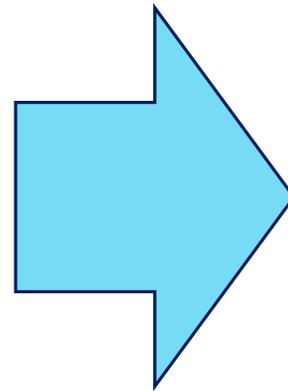


図7 特定避難困難地域（野球場整備後）

- 凡例
- 特定避難困難地域
 - 收容可能距離 (当該地域の受入人数により半径が変化)

4. 完成予想図



図8 完成予想図

4. 完成予想図



図9 完成予想図

5. 概算事業費

○国の社会資本整備総合交付金等を活用し負担軽減を図ります。

【事業費増の主な要因】

- 類似他球場の面積単価による算出 ⇒ 概算数量と見積りによる算出 へ変更
- 設計の見直しや野球関係団体等からの意見を踏まえ**施設の追加・機能のグレードアップ**
 - ・概略検討による液状化対策費の増、**サブグラウンド舗装をメイン球場舗装と同じ**に変更
 - ・メイン球場とサブグラウンド周辺の**ウォーミングアップエリア**、外周の**車両通行可能な園路**の追加
 - ・施設および利用可能面積の増に伴う**排水施設の延長の増**と規格の変更
 - ・一部区間の防球ネット高さの変更（**15m⇒30m**）、管理棟の諸室の増 等

表2 概算事業費（基本設計時点）

概算事業費	内 容
約60億円 【事業費の内国費】 ○工事費1/2 ○用地費1/3	○設計：基本設計・基本設計修正・実施設計 ○工事：基盤整備・野球場(メイン球場・サブグラウンド)整備・付帯施設整備 ○用地：用地・補償

※概算事業費は、今後実施の基本設計の修正、実施設計、資材・労務費の状況により変動します。